

平成26年第15回教育委員会定例会

開会年月日 平成26年8月8日(金)

場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 委員長 内藤幸子
同 委員 安藏誠市
同 委員 外松和子
同 委員 長島良介
同 教育長 河口浩

議 題

1 議案

- (1) 議案第38号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画(素案)の撤回・見直しを求める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて〔継続審議〕
- (9) 平成26年陳情第3号 練馬区の小学校教科書についての陳情書

3 協議

- (1) 練馬区立学校の教育課程の在り方について〔継続審議〕
- (2) 練馬区立中学校選択制度の今後のあり方について〔継続審議〕
- (3) 平成26年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

4 報告

(1) 教育長報告

子ども・子育て支援新制度における私立幼稚園の移行策について

平成26年度練馬区教育委員会一斉防災訓練の実施報告について

教科書展示会の実施状況について

練馬区次世代育成支援行動計画（後期計画）実施状況（平成25年度）について

「居住実態が把握できない児童」に関する調査結果について

その他

平成26年度練馬区立中学校生徒海外派遣の帰着について

その他

開 会 午前 10時00分

閉 会 午前 12時04分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	郡 榮 作
こども家庭部長	堀 和 夫
教育振興部参事教育総務課長事務取扱	岩 田 高 幸
教育振興部教育企画課長	羽 生 慶一郎
同 学務課長	内 野 ひろみ
同 施設給食課長	三ツ橋 由 郎
同 教育指導課長	堀 田 直 樹
同 学校教育支援センター所長	伊 藤 安 人
同 光が丘図書館長	加 藤 信 良
こども家庭部参事子育て支援課長事務取扱	木 村 勝 巳
こども家庭部こども施策企画課長	柳 橋 祥 人
同 保育課長	櫻 井 和 之
同 保育計画調整課長	杉 本 圭 司
こども家庭部参事青少年課長事務取扱	中 里 伸 之
こども家庭部練馬子ども家庭支援センター所長	吉 岡 直 子

委員長

ただいまから平成26年第15回教育委員会定例会を開催する。

本日は、傍聴の方が17名いらしている。どうぞよろしく願います。

教育長

案件に入る前に、本日の審議環境について、ご説明させていただく。

本日の会議については、傍聴希望者が多数いらっしゃるため、傍聴席に入れなかった方の控室に、この音声を流させていただいている。傍聴席数を増やすことはできなかつ

たが、控室に音声を流すことができたので、事務局として設定させていただいた。各委員にご異存がなければ、このまま進行を進めていただければと思っている。よろしくお願ひする。

委員長

いかがか。

委員一同

はい、結構である。

委員長

それでは、このまま審議を進めてまいりたいと思う。

案件に沿って進めさせていただく。本日の案件は、議案1件、陳情9件、協議3件、教育長報告6件である。

まず、本日の会議の進め方についてお諮りする。「議案第38号 練馬区立小学校教科用図書採択について」は、案件の最後に審議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい、結構である。

委員長

それでは、そのようにさせていただく。

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画(素案)の撤回・見直しを求める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて〔継続審議〕

委員長

それでは、陳情案件である。

平成19年陳情第4号から平成26年陳情第2号の8件については、事務局より新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。したがって、本日は継続としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

委員長

では、そのようにさせていただきます。

(9) 平成26年陳情第3号 練馬区の小学校教科書についての陳情書

委員長

次の陳情案件である。

平成26年陳情第3号 練馬区の小学校教科書についての陳情書。

この陳情については、本日、新たに提出されたものである。事務局より願います。

事務局

それでは、陳情を読み上げさせていただきます。

平成26年陳情第3号 練馬区の小学校教科書についての陳情書。

陳情者については、記載のとおりである。

陳情要旨である。

1. 個人の内面にふれる「愛国心」「道徳心」「公共の精神」「奉仕の精神」を押しつけない内容の教科書を選んでください。
2. 教科書の裏表紙に記載されている「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」は削除するよう文部科学省に申し入れてください。
3. 放射線の科学的な知識を学べる教科書を選んでください。
4. 竹島や尖閣諸島の領土問題に対し公正な表現をしている教科書を選んでください。
5. 小中学校で使用している教科書を、全図書館に置いて閲覧できるようにしてください。

以上である。

委員長

それでは、陳情審査に入る。本件については、本日、結論を出したいと思う。

なお、審査の進め方については、陳情項目が5項目あるが、教科書採択に関するものなので、項目ごとではなく、一括審査をしたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい、結構である。

委員長

では、そのようにさせてもらう。
それでは、この陳情に関して、各委員のご意見を伺う。

長島委員

5番、小中学校で使用している教科書を、全図書館に置いてという部分だが、現状はどのようになっているのか教えていただけるか。

光が丘図書館長

練馬区の図書館での教科書の所蔵状況だが、光が丘図書館、関町図書館、南田中図書館の3館で、練馬区で採択をした教科書5検定分と未採択分3検定分をそれぞれ所蔵しているところである。

以上である。

長島委員

ありがとう。

委員長

ほかの方、ご意見。ご質問でも結構だと思う。

教育長

図書館以外で教科書センターがあると思うが、今年の閲覧状況はどうか。

学校教育支援センター所長

図書館以外に学校教育支援センターの教科書センターで、通年で閲覧することができる。また、今年の法定展示においても、45名の方にお見えいただいたということである。

委員長

ほかに。

安藏委員

今の件で、それぞれ置かれているということだが、教科書を閲覧する要望というのは非常に多くて、実際になかなか見ることができにくい状況というのはあるのか。

光が丘図書館長

25年度、中学校の教科書に関しては460点、小学校に関しては613点ほど貸し出し状況があるが、全体の貸出数からして、貸出がしにくいという状況ではないと考え

ている。
以上である。

学校教育支援センター所長

私どもでは、通年、教科書展示ということで、また、曜日、時間も、他の22区に比べて、広くご覧いただけるような体制を整えているところである。

委員長

今のお話を伺うと、私は、支援センターでも、図書館でも、十分に閲覧することはできる状況にあると解釈させていただいた。
ほかの方、いかがか。

教育長

2項目目だが、陳情書では、その下に陳情の理由というのがあって、この2項目目の理由については、学校教育の中で学ぶための教科書を「税金によって無償、だから大切に」と強調することは、子どもたちに偏見を抱かせ教育的ではないと思われると書いてある。私としては、多くの国民の皆様方の税金で教科書ができていて、それをもって教育というものが成り立っているということ、子供たちにもしっかり学んでもらい、認識してもらうことは非常に大事な事なのではないかと思っている。

また、1項目目で、「愛国心」「道徳心」「公共の精神」「奉仕の精神」を押しつけるなど。それが徳目における統制をするのではないかというご趣旨のようだが、私としては、現在施行されている教育基本法、また、学習指導要領というものをしっかりと踏まえた上で、これらについて、子供たちにしっかり教育をしていくということも、大事なことだと思っている。

また、5番目、今、やりとりがあったが、教科書を全図書館に置いて閲覧できるようにという陳情については、私としては、現行、3館で置いているし、学校教育支援センターの中に教科書センターを設けて閲覧に供しているので、それで十分だとは思っているが、理由の中で、教員や保護者、地域の方々が気軽に閲覧できて、広範な意見を取り入れることができる教科書選定にしてもらいたいという理由で、このようなことをおっしゃっているということがわかった。

教科書を採択するということは、私ども教育委員会の非常に大きな役割というか、仕事であると認識しており、やはり、教育委員会としての責任と権限をもって、教科書というものは選ぶべきと考えているので、今申し上げたことを勘案して、冒頭、委員長からあった一括して判断をするということから言うと、私としては、この陳情については不採択にさせていただきたいと思う。

外松委員

私は、陳情要旨の2番について、少し自分の考えを述べさせていただきたいと思う。
自分の経験も含めて、教科書は、かつては無償ではなかった。何冊もあるから、お金がかかることで、中には購入するのが非常に大変で、親御さんも、それから、該当の子

供本人も胸を痛めている、そんな家庭もあった。自分も兄弟が多かったので、春休みには、苦い思い出がある。それはどうしてかという、春休み中に教科書を買わなければならないので、両親に、代金を要求するのがつらくて、なかなか言い出せなかったのである。

現在、教科書は無償になっているが、無償となるように尽力してくださった方々の努力で、最初は小学校の低学年ぐらいから始まって、段階的な無償配付を経て、昭和44年からようやく小学校と中学校全部が、義務教育なので教科書は無償配付ということになった、そういう経緯があったかと思う。

一般的に、日本人は、自分の物はとても大切に使うが、残念ながら、公共の物は、ややもすると、雑に扱うという、そんな傾向がある。今、教科書は税金によって無償で支給されているが、税金というのは、汗水流して働いてくださった方々の尊いお金である。そういう方々にも思いを寄せて、感謝の心が持てるような、人々の努力に敬意を払うことのできるような、そんな人に育ってもらいたいと願っている。

したがって、教科書の裏表紙に記載されているこの文言は、決して偏見を抱かせるようなものではないと考える。私は、この陳情は受け入れがたいものがあると思っている。

委員長

ほかの方、いかがか。よろしいか。

私は、1番と3番と4番に関してお話ししたいと思うが、1番では、「愛国心」「道徳心」「公共の精神」「奉仕の精神」を押しつけない内容の教科書を選んでください。3番では、放射線の科学的な知識を学べる教科書を選んでください。4番では、竹島や尖閣諸島の領土問題に対し公正な表現をしている教科書を選んでくださいとある。それぞれに大切な部分もあるかと思うが、私たちは総合的な観点で教科書を選んでいるので、1つの内容に的を絞った選定をしているわけではないので、やはり、この陳情は受け入れがたいなと思う。

そのほか、いかがか。よろしいか。

今、各委員からいろいろご意見をいただいたが、ここで、まとめてよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

各委員のご意見をいただいた。教科書採択については、教育委員会の権限と責任において総合的な観点から公正、中立な立場で採択を行っており、特定の問題を取り上げて、それを考慮した教科書を採択するよう求める陳情に関しては「不採択」としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

委員長

では、平成26年陳情第3号については「不採択」とする。

協議(1) 練馬区立学校の教育課程の在り方について〔継続審議〕

協議(2) 練馬区立中学校選択制度の今後のあり方について〔継続審議〕

協議(3) 平成26年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

委員長

次に、協議案件である。

協議(1)練馬区立学校の教育課程の在り方について、協議(2)練馬区立中学校選択制度の今後のあり方について、協議(3)平成26年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について。

これら3件の協議案件については、本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい、結構である。

委員長

では、そのようにさせていただく。

(1) 教育長報告

子ども・子育て支援新制度における私立幼稚園の移行策について

平成26年度練馬区教育委員会一斉防災訓練の実施報告について

教科書展示会の実施状況について

練馬区次世代育成支援行動計画（後期計画）実施状況（平成25年度）について

「居住実態が把握できない児童」に関する調査結果について

その他

平成26年度練馬区立中学校生徒海外派遣の帰着について

その他

委員長

次に教育長報告である。

教育長

本日は、報告を6件予定していたが、この後、教科書採択があるので、報告の番と口頭報告1件のみということで、残りについては、次回、報告をさせていただきたいと思う。よろしく願います。

委員長

それでは、報告の1番についてお願いします。

学務課長

資料に基づき説明

委員長

それでは、各委員のご意見やご質問をお伺いする。

教育長

今回、時間のない中で、これだけ取り出して報告をさせていただいたのは、練馬区内には40もの私立幼稚園がある。私立幼稚園にとっては、今回、国が進めている子ども・子育て支援新制度の動きによって、これから将来にわたる幼稚園運営について、非常に大きな変更を余儀なくされかねないということがある。既に新聞紙上あるいはマスコミ関係で、幼稚園型認定こども園の中には、認定こども園を返上したいと申し出てくる園もかなり出てきているというような報道もされている。

そういう意味で、私立幼稚園にとって、今回の新制度がどういう仕組みであるのかということ、まず、教育委員の皆さん方にも知っておいていただいて、その上で、事務局として、今、私立幼稚園協会といろいろな話し合いをしていることをあわせてご報告させていただいたほうがよいだろうということで、あえて、この項目だけ取り上げさせていただいた次第である。

本日は新制度における私立幼稚園の枠組についての報告だが、現在私立幼稚園とさまざまな話し合いをしていて、現行から新制度に移行する際に1、2、3とある選択肢、どれが何園ぐらいになってくるのかということ、順次、教育委員会の中でお伝えしていく。その前提として、枠組を知っていただきたいということで出させていただったので、よろしくお願いします。

委員長

ご意見やご質問はあるか。

外松委員

ただいま教育長から、練馬区の現状やマスコミ報道等のこともお話ししていただいたが、練馬区の私立幼稚園40園の中、認定こども園があるのが5園となっている。この5園の経営者の方たちは、今後、国の新しい動向を見据えて、どのように考えていらっしゃるのか、もう、そのような声はあるのか。

学務課長

7月に、国が来年度の予算編成をするに当たって、予備調査ではあるが、意向調査があった。40園に意向を確認したところだが、認定こども園5園のうち、2園については、移行しがたいという意向をいただいている。3園については、新制度へ移行すると、その時点での意向は伺っている。公定価格が示されて、4月以降の運営経費のシ

ミュレーションができるようになり、移行するかどうかの1つの判断基準になってきている。そういったことも含めて、2つの認定こども園が移行しないという考えを表明されている。来年度に向けて、入園の募集の時期も迫ってきているので、現在、各園と私どもで、どのような点が移行の障害になっているかを、運営の部分も含めて、調整に入らせていただいているという状況がある。

委員長

各幼稚園のご意向やご事情を十分考慮する、それが最優先になって移行されていくのだと思うが、今のお話を伺って、それには、よく理解していただかないとなかなか難しいと感じたので、その辺のところ、よろしくお願ひしたいと思う。
ほかに。

安藏委員

今の件だが、時期が非常に迫っているというところで、早く決めなければいけない課題だと思うが、いずれにしても、国で示した公定価格というのが、園の状況によって、有利、不利がある。このまま進んでいったときに、園の対応によって、保育料の差であったり、いろいろなところで、状況が大きく変わってくると思う。そういったときに、これから幼稚園を希望される保護者はどういうふうを選択するというか、かなり混乱が出てくるのではないかということは予想される。そういった意味で、公定価格というのは全国平均的な数値で決められてきたのだらうと思うが、大都市においては、やはり、全国の平均の数値というのは当てはまらないので、その辺、できるだけ保護者の混乱のないように、うまくやっていたらかなければいけないのかなと、そんな感じはしている。

委員長

皆様のご発言で、ただいまの状況が少しわかったかと思うが、今日ところはこの辺にして、次に行きたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、その他の報告をお願いします。

教育振興部長

平成26年の練馬区立中学校生徒海外派遣の実施結果について、報告申し上げます。

7月26日(土)から8月2日、機中泊を1泊置く7泊4泊で、オーストラリアのイプスウィッチに研修に行ってきた。生徒は、5泊6日のホームステイと現地のハイスクールに4日間通学をした。その中でさまざまな体験をし、8月2日、事故もなく、全員元気に研修を終えた。

今後の予定だが、本日1時から事後研修会ということで、開進第二中学校のセミナー

ハウスで研修を行う。

8月29日(金)3時半から4時半、生涯学習センターホールで解団式ということで、今年度の海外派遣研修については全て終了という運びになる。

私からは以上である。

委員長

何かご質問、ご意見あるか。

教育長

お疲れ様だった。

委員長

本当にお疲れ様だった。ご苦労さまだった。

外松委員

本当にお疲れ様だった。全員が無事に帰国できて、何よりだったと思う。練馬区の特徴である中学生の海外派遣、地域の子供の教育、支援に携わっている方から、この海外派遣を経験したお子さんは成長されてから、今でも時々、あのとき、オーストラリアに行ったことが自分の生き方に生きているというようなお話を伺うこともある。ほんとうに意義ある海外派遣なので、財政的に大変な面もあるかとは思いますが、練馬区の特徴として、ぜひ続けていきたい1つの大事な仕組みだと思っている。

委員長

ほかにご意見あるか。よろしいか。

それでは、ほんとうにご苦労さまだった。

(1) 議案第38号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

委員長

では、議案に入る。

議案第38号、資料1、練馬区立小学校教科用図書の採択について。

来年度から使用する小学校教科用図書について、本日、採択を行う。この教科用図書の採択は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条第6号の規定により、教育委員会の職務権限になっている。

採択に当たって、教育委員会では4月に小学校教科書協議会に諮問を行い、7月23日開催の第14回定例会にて、同協議会から答申を受けた。

教科書協議会、調査委員会、各校研究会など、答申の作成に関係された皆様に、教育委員会を代表して御礼申し上げる。

教育委員会では、この答申を受けて、各委員それぞれに、教科書の調査・研究を行ってまいった。

そこで、本日は各委員から種目ごとに推薦する図書の発行者名を発言していただき、採択してまいりたいと思う。

ここで、種目ごとの発言順位についてお諮りする。

全部で11種目の教科用図書を採択するが、最初の種目である国語については安藏委員から行い、その後は種目ごとに最初の発言者を外松委員、長島委員、河口教育長、そして再び安藏委員から行う順序で進めたいと思うが、いかがか。

委員一同

結構である。

委員長

それでは、そのように進めさせてもらう。

まず、国語である。安藏委員から発言をお願いします。

安藏委員

まず、教科書選定に当たり、教科書調査研究資料並びに各校の先生方の資料、小学校教科書協会答申を参考にしながら検討させてもらった。

国語については、三省堂を推薦したいと思う。理由だが、低学年では、文字が大きく、読みやすく、興味が持ちやすい印象を受けた。分冊は、学びを広げ、学習内容をより深めるようになっていて、ページのレイアウト、写真などもとてもすっきりとして、見やすく、使いやすいつと感じた。目次の表題で、その単元の目的がわかりやすくなっていて、よいつと感じた。

以上の点から、三省堂を推薦したいと思う。

以上である。

外松委員

私も、多くの資料を見せていただき検討した。私は、光村図書を推したいと考える。学習指導要領の読むことの中の、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を取り上げている作品数が52と多く充実している。また、読むことの文集別作品数では、文学的な文章38、詩42、説明的文章34、俳句、短歌、漢詩45と、児童が多くの作品に触れ、学ぶようなつくりになっている。

また、若干苦手であると言われている、話すこと・聞くことの言語活動では、学校生活において友人とのコミュニケーションを図ったり、将来、社会に出ていくための話し合い活動の単元が12と、これも充実している。

そして、ところどころになるが、「季節の言葉」というページがあり、6学年では四季に「春の息吹」、「夏の盛り」、「秋の深まり」、「春を待つ冬」とそれぞれタイトルがつき、俳句が2首ずつ掲載されている。写真もあり、日本語の持つ奥深い世界を知ることができると思った。

また、6年生の「卒業する皆さんへ」のページでは、震災後、日本国籍を取得したドナルド・キーン氏の文章もおさめられており、改めて、日本の国、日本の文化を認識し

ていく機会にもなっている。
雑駁ではあるが、以上である。

長島委員

私は、光村図書を推薦したいと思う。内容的には、親しみやすい物語が多く使われているということと、国語というと、やはり読書に通じることがとても大事だと思うので、その辺を考えたときも、全体的に本の紹介があったり、読書に興味がわきやすいようなつくりであると感じた。

以上である。

教育長

私も、光村図書を推薦したいと思う。学習指導要領において、国語は、各教科等の学習の基本ともなる言葉の力を育てる基礎、基幹教科と位置づけられているわけである。話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの各領域において、基礎的、基本的な知識、技能を確実に習得するとともに、これらを活用して課題を探究するという、そういう2つの面から、国語の能力を身につけることが求められていると思っている。

光村図書では、教科書の冒頭で、1年間の学習の見通しが持てるように工夫しているとともに、各単元の最初のページに、学習のねらいや中心となる言語活動、また、活動の流れが示されていて、より主体的に子供たちが学習できる、そういうふうに配慮されていると思っている。

各単元の終末にも、学習を通して身につけさせる力を整理した「大切」というコラムを設定しているし、2年生以上は、巻末に語彙を豊かにするための資料、「言葉の宝箱」を設定している。さらには、先ほど外松委員からあったが、「季節の言葉」というものが取り入れられていて、そういう意味では、伝統的な芸能、文化に触れさせる配慮もしているということを経験的に考えると光村図書かなと思う。

以上である。

委員長

私も、光村図書を推薦する。その理由は、まず、話すこと・聞くことの単元が他社に比べ多かったり、挿絵にも子供同士のコミュニケーションの様子が多く描かれたりして、コミュニケーション能力の育成を図ろうとする意図が強く感じられる。子供たちに、言語能力の基礎が確実に身につくようになると思う。

また、子供の発達段階に応じて、系統的に日本の古今のすぐれた作品を数多く取り上げている。例えば2年生以上の「季節の言葉」では、5年生で『枕草子』を取り上げるなど、日本の四季と日本の伝統文化や自然と巧みにマッチさせ、美しい挿絵や写真なども添えた、すぐれた内容になっていて、豊かな感性や情緒を育むことができると思う。

さらに、他社に比べ、読むことの領域も作品数が多く、文学、詩歌、説明文のバランスもよく、内容も充実している。また、「この本を読もう」では、400冊以上の図書が紹介されていて、読書活動の充実が図られると思う。

最後に、学習活動を簡潔に、具体的に例示したり、箇条書きで表現したりして、何を

どのように学習するのか、大変、明確になっていると思う。

以上である。

皆さんの推薦をお聞きして、国語については、光村図書を採択するというところでよろしいか。

安藏委員、よろしいか。

安藏委員

結構である。

委員長

それでは、国語については、光村図書を採択する。

それでは、続いて、書写である。外松委員から発言をお願いする。

外松委員

書写だが、どの教科用図書も1・2学年用では、姿勢、筆記用具の正しい持ち方を記載している。また、毛筆の始まる3・4学年用では、毛筆用具の扱いが児童にわかりやすいよう丁寧に記されている。

東京書籍は、1・2学年用は姿勢を「足ペタ」、「背中ピン」で「トン」と、1年生に理解しやすいつくりと言える。

三省堂だが、1年生の文字の書き方指導に特徴があった。まず、止めの「く」、「へ」から入り、次に、はらいの「つ」、そして、はねの「か」、最後に曲がりの「お」と「と」を学び、その後に筆順指導に入るようなつくりになっている。これは文字の形を認識して書きあらかず指導として、1年生においても適していると思った。また、毛筆指導の始まる3年生の用具の置き方とか定位置とか、実際の使い勝手をよく認識したつくりだと思った。

光村図書は、1年生は筆順指導から入り、次に、止め、はらいの指導と続くつくりとなっている。

また、3学年の毛筆指導では、光村は、筆の運びを始筆「トン」、送筆「スーッ」、終筆「トン」とキャラクターも描かれていて、初めて学ぶ3学年の児童に大変受け入れやすいと思われる。

5・6年用でも、児童が筆遣いを認識できるように見やすさの工夫をしたつくりとなっていて、学習指導要領にもある毛筆を使用する書写の指導は、硬筆書写の能力を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようになるにかなっている教科用図書であると見た。

したがって、総合的に判断して、私は光村図書を推したいと思う。

長島委員

私も、光村図書を推薦したいと思う。まず、教科書として、書写なので、やはり、見本が実物に近いということが必要で、実物大だと子供たちもイメージしやすいと思ったので、何社かあったが、その中でも一番見やすく感じたことと、あと、先ほど外松先生

のお話にもあったが、筆の運びなどが音で表現されていたり、写真とキャラクターがわりと大きく書かれていて、書写は美術的な部分もあり、イメージが大事だと思う。

教育長

光村図書の教科書は、各教材における学習のねらいというのを非常に大きく、わかりやすく示していると思っている。児童が主体的に課題を発見したり、課題を解決できる学習を進めることで、基礎、基本の定着、そしてまた、場面や要求に応じて、それを適切に活用するということが育成できると思っている、基礎、基本を効率的に定着させるために、書き込み欄が非常に充実していると思った。

また、毛筆で学習したことが硬筆に生かせるように、3年生以上の毛筆教材では、教材文字と同じ学習要素を持つ硬筆課題を必ず設定している。

習得した書写力を日常に生かすという面でも、巻末に手紙や原稿用紙等の定型書式や新聞、聞き取りメモなどの例示があって、子供たちも非常にイメージしやすいかと思っている。

よって、私としては、光村図書を推薦したいと思う。

以上である。

安藏委員

私は、教育出版を推薦させていただく。全体的に見て、ほんとうに甲乙つけがたい内容だったが、その中で、私として印象に残ったのは、筆先の動きや筆圧の説明、筆運びに関しても、書かれている色だとか、そういったバランスが一番よいと感じた。また、姿勢などもイラストや写真で載っていたが、非常にわかりやすく思えた点で、教育出版がいいのではないかと思った。

以上である。

委員長

私は、光村図書を推薦する。その理由としては、大体、教育長のおっしゃったことに近いが、まず、子供に課題意識を持たせて学習させ、そのポイントについて自己評価できるようにしている。

また、筆遣いのポイントを簡潔に的確な言葉で示したり、グレーと朱色の濃淡の墨で点、角の重なり方や力の入れぐあいまで鮮明にわかるようにあらわしたり、紙面をすっきりさせたりしてねらいを焦点化し、子供が学習のねらいやポイントを明確につかむことができるようよく工夫されていて、主体的に学習できると思う。

また、どの学年にも、姿勢や道具の扱い方など書写学習の基本的事項や平仮名や片仮名の表、全学年の既習漢字表、3年から6年にはローマ字の表が繰り返し掲載されているので、振り返りに役立つ、書写の基礎、基本がしっかりと身につくようになると思う。

さらに、各学年巻末の資料の活用例には優れたものが精選され、見やすく掲載されている。子供が目的に応じた書き方を具体的に理解し、書くことの価値を実感できるようになり、手紙や記録など、実際の日常生活や学習活動に役立てることができるようになると思う。

それでは、まとめたいと思うが、多くの方が光村ということなので、光村図書でよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、書写については、光村図書を採択する。
続いて、社会である。長島委員から発言をお願いします。

長島委員

私は、東京書籍を推薦させていただきたいと思う。東京書籍と教育出版の2つで、かなり悩んだ。社会は、非常に難しい戦争の問題や原発、震災の問題など、きちんと事実を知って、子供たちに理解してもらいたいという気持ちがあるので、非常に悩ましいところではあったが、東京書籍は、文章も客観的で、事実も忠実に描かれているような印象を受けた。教育出版も、もちろん、全体で見れば非常に甲乙つけがたいが、どちらかという、東京書籍のほうがわかりやすいイメージで伝えているような感じを受けた。

教育長

私も東京書籍と教育出版で大変悩んでいて、東京書籍は、各章単元において学習問題をしっかり設定しているということと、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という、この3段階が非常にクリアに提示されていて、そういう意味では、テーマに基づいて追究してまとめるという社会科学学習における問題解決的な学習の仕方を身につけるには、非常に工夫された教科書だなと思った。

ただ、全体の中で、教育出版も、やはり同じように各章には工夫が施されているし、バランスも非常によいということと、やはり特筆すべきところとしては、今回、領土問題がこれだけいろいろと取り沙汰されている中で、子供たちの関心もあるということに対して、教科書として、しっかり答えているかなと。そういう意味では、教育出版の領土問題に関する記述というのは見るべきものがあるなと思っている。

私としては、最終的に教育出版を推薦したいという結論に立っているが、その一番大きな理由は、自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実についてという観点があるが、今回の東日本大震災がもたらした、さまざまな自然災害に対して、いかに国や自治体、そしてまた、多くのボランティアの皆さん方が復興に向けて努力をしているかという姿を子供たちにしっかりと見せるということが、今回、社会科の教材において非常に重要なポイントになると思って、全教科書に目を通させてもらったが、そういう意味では、教育出版の記述が非常に充実していたということである。

以上である。

安藏委員

私も、教育出版を推薦したいと思っている。今お話があったとおり、甲乙つけがたい

内容ではあるが、その中で、やはり、教育出版は、ページのレイアウトが比較的よい印象を受けた。また、写真の大きさや文字の配列、資料なども非常に見やすく感じ、吹き出しなども、子供たちに疑問を投げかけたり、わかったことを話したり、子供の視点で学びを深めるようになっていると思った。また同時に、学びの手引きも子供たちにいろいろと投げかけて、学習を深めるようになっているところがよいと感じた。

以上である。

外松委員

私も、教育出版と東京書籍で大変に悩んだ。先ほど教育長も述べていたが、災害、惨事の記述は教育出版が非常に充実しているが、私は、これから述べることで東京書籍を推したいと思う。

東京書籍は、学習の進め方として、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「生かす」の課題で、問題解決的な学習ができるようなつくりとなっている。そして、学びやすい点だが、3・4学年用の下の後半には、折り込み式で日本地図があって、楽しみながら知識の基礎が養えるよう、都道府県の特産品や、「空から見てみると」などがあって、発達段階にマッチしていると思った。

また、第5学年の上では、領土をめぐる問題として、北方領土、竹島、尖閣諸島について、説明と地図、写真等を掲載している。我が国の国土に対する知識、理解への基礎を育てることができると感じた。

また、どの学年も、終わりには見開きで、次の学年に向けてのページが設けられている。今までの学びを振り返りつつ、今後の学びに興味、関心を持ちながら、期待が高まるようなつくりになっていると見た。

以上である。

委員長

それぞれ、ご意見が分かれているようだが、実は、私も皆さんと同じように、東京書籍と教育出版とで大変悩んだ。どちらも学習指導要領のねらいを大変よく踏まえて編集されているなということ強く感じているが、最終的には、教育出版を推薦したいなと思っている。その理由としては、まず、問題解決的な学習の進め方が、より明解に示されていると思う。どの学年も、見開きのページで何を学ぶかが捉えられるよう、わかりやすく紙面構成され、内容、表記ともに大変すぐれていると思う。特に、学びの手引きや吹き出し等、活動のポイントや考え方のヒントや具体例が適切で、子供たちの学びの手助けになり、主体的に学びができるようになると思う。

また、単元の終わりには、書き込み式のまとめのページがあり、さまざまな言語活動の能力が育つよう工夫されていたり、学びを深め、確かなものにしようとするページも、さまざまに工夫されたりしている。

巻末には、各学年の基本となる大切な内容を押さえた資料が見やすく掲載されているなど、基礎、基本の定着と活用力を育てよう、よく工夫されていると思う。

さらに、全体的に社会事象の説明や資料が新しく、詳しく、客観的に取り上げられていて、とてもよいと思っている。

社会科に関しては、少し意見が分かれているようだが、数からいうと、教育出版が3で、東京書籍が2ということだが、外松委員、長島委員はいかがか。

長島委員

はい、教育出版で。

教育長

これは、やっぱり、悩む。

外松委員

私も、どちらにするか、ほんとに最後まで悩んだので、教育出版さんも十分にわかる。

委員長

では、お二方とも、両方で悩んだ末に、ここで改めて第1を変えていただいたという形なので、社会科については、教育出版を採択するというところでよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、社会科については、教育出版を採択する。
次に、地図である。河口教育長から発言をお願いします。

教育長

地図については、東京書籍がよかったと思っている。添付書類も大きくて見やすいということ、配色、版が大きいからということもあるが、地名等の文字が見やすいということ。また、同じように、資料地図の大きさと見やすさが、やはり非常に目立つと思う。今回、東京書籍が版を大きくしたことのメリットが随所にあらわれているということで、非常に目を引いたということは事実である。

内容で見ても、非常にわかりやすい、地図だけではなくて、歴史の学習もできるような工夫がされているということ。

それから、練馬は東京にあるわけだが、東京都の中心部のページもしっかりとあって、そういう意味では、子供たちにとっても勉強になると思った。

領土や自然災害に関する資料地図が非常に見やすかったということで、内容面、それから、見やすさを勘案すると、今回は東京書籍だと感じた。

以上である。

安藏委員

私も、東京書籍がよいと思った。地図自体は、何となく帝国書院の地図が見なれているような感じがしたが、やはり大きく見やすいということが非常に魅力を感じて、紙

面からの情報が非常にわかりやすい。子供たちにとっては使いやすいのではないかなと感じた。また、写真も多く、日本を初め、世界の様子の情報も多く感じた。とにかく大きくなっているメリットを生かした教科書だと思った。

以上である。

外松委員

私も、東京書籍を推したいと思う。お二人の方が述べられたように、A4サイズと、今までよりぐっと大きくなっていて、その効果がよくあらわれていると思う。また、表紙をあけた見開き3ページのところは、「眺めてみよう日本の姿」というタイトルがついて、日本列島全体と海の様子がわかるようになっていて、海は、色使いや立体感の工夫で深さも感じられる、そんなつくりとなっていた。特に、社会を初めて学ぶ3年生にはよいのではないかなと思う。

また、各ページにキャラクターが登場して、学習課題を掲示したり、地図の見方へのヒントを与えたりしている。授業以外に自主的に地図帳を開いたときに、大変これが役に立ちそうである。

歴史学習では、日本の歴史、文化を深められるようなページもある。郷土史なども取り上げているところもよいと思っている。

資料も充実している。一例を挙げると、日本の電源の変化と各国の構成比較という項目もあり、ふだん、社会、日常生活を支えている電源について、水力、火力、原子力の構成がわかるとともに、ほかの国とも比較できるような資料が挙げられている。

また、日本の工業の内訳と変化では、60年代と2010年代を比較しており、資料としても適切だと思った。

長島委員

私も、東京書籍を推薦する。先ほど安藏委員もおっしゃっていたように、私も帝国書院で勉強させていただいたこともあって、親しみがあって、こういうものだというところがあつたが、今回、東京書籍の教科書を拝見して、随分イメージが変わった気がした。とにかく、イラストと写真が地図に散りばめられていて、関連性がわかりやすいのと、やはり、これから大人になっていって、せめて国の名前ぐらい覚えておかなければいけないということを考えると、こういった教科書だと、イメージで残るのではないかなと思った。

また、一生懸命、興味を引くようなつくりがなされているような感じを受けた。特に日本の自然災害についてや、とにかく写真と各国の特色等がわかるようになっているのが非常によかったと思う。大きいのは、やはり、図鑑としての読み物としても、大人も非常に役に立つのではないかなというぐらい、よい印象を受けた。

以上である。

委員長

私も皆さんと同じように、東京書籍と帝国書院のどちらもそれぞれすぐれた特徴があるので大変悩んだが、東京書籍を推薦したいと思う。東京書籍は、小学校社会科の学習

内容や児童の発達段階に合うように的を絞り、授業と関連させて活用しやすいよう工夫された地図になっていると思う。例えば、地図に歴史的建造物や写真が掲載されている。奈良や京都の歴史地図があったり、各地域の特産物や工業に関するイラストがあったり、日本の統計資料が地方別に色分けされているなど、小学校社会科の学習内容に関連させた工夫がたくさんある。

また、地球儀の取り扱いについての説明箇所が多かったり、地図活用の仕方も子供の立場に立った課題提示になっていたりして、地図帳を初めて使う子供の興味、関心を高め、わかりやすいよう丁寧に扱っていると思う。さらに、全体がA4サイズで見やすく、地名や川の名前、海の名前の文字等も見やすいなど、小学生が使いやすいよう、さまざまに工夫していると思う。

以上、地図帳を初めて手にする小学生の入門書としてふさわしいと考える。

それでは、地図については、皆さんそろって東京書籍ということだったので、東京書籍を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、地図については、東京書籍を採択する。

続いて、算数である。安藏委員から発言をお願いします。

安藏委員

私は、東京書籍を推薦したいと思う。とにかく、ページが見やすかったことと、内容量とそのバランスがとてもよいように思った。また、イラスト、キャラクターを通して、子供たちに興味、関心を持たせ、学習にかかわるようになっていくことに非常に好感が持て、また、内容もわかりやすく、同時に学習を深めることもできるようになっていると思った。そして、自ら取り組む自習コーナーも設定されていて、自習の習慣が身につくよう設定されていることがよいと思った。

以上である。

外松委員

私もいろいろ悩んだが、東京書籍を推したいと思う。児童が自らの力で問題を考え解決したり、または友達と話し合ったりしながらよい考えを導いたりすることができるように、学習のプロセスを重視したつくりになっていると思う。とにかく、児童が自ら、ある程度楽しみながらできる、わかる、それから使えるという、その辺を目指したつくりだと思った。キャラクターも登場させて、学習理解のヒントとか、また、考え方を導いている点も、みずから学んでいこうという、そこに即しているのではないかと思った。

巻末には索引のページも設けられている。また、2年の上からは「算数自習コーナー」というのがあり、学年に応じて補助問題が少しずつ増え、充実したつくりになっている。我が区でも課題の1つとなっている自学、自習の習慣がこれだったら少しは身につく

ではとも思った。子供たちがしっかりと活用して、算数に意欲的に取り組んでくれたら
なと思っている。

以上である。

長島委員

どの教科書も、算数を段階的に理解していくことを目的としていて、甲乙つけがたく、
非常に悩んだが、その中でも、東京書籍が一番見やすいというのと、何社かノートの事
例などもあったが、一番よかったと思った。ノートのつけ方は非常に大事になってくる
と思うので、そういったのもよかったと思う。あとは中学校につなげようという試みも
あり、最終的には東京書籍を推薦したいと思う。

教育長

私も、東京書籍がよいと思った。内容面において、各学年とも、基礎的、基本的な内
容の習得とその活用ということに多くのページを割いているし、一人一人の児童が確実
に身につけられるような配慮が見られると思っている。

また、その一方で、さらに習熟が必要な児童のために、本文でも各練習問題と関連し
た補充問題を巻末に置いていて、一人一人の児童が自分の学習状況に合わせて習熟に取
り組めるような工夫が見られる。

また、さらに、幼稚園、保育園、それから中学校との連携に考慮がされていた。算数
の入門期では、認識しやすい動物キャラクターを用いて、学校の場面を多く取り上げて
いるし、また、先ほど長島委員からもあったが、第6学年では中学校の数学とのつなが
りというのをわかるように記述がされていること等々を勘案すると、一番よいと考えた。

以上である。

委員長

私も、皆さんと同じように東京書籍を推薦する。具体的には、まず、問題解決型の授
業の流れが簡潔に示され、何をどのように学ぶのかがわかりやすい紙面の構成になって
いると思う。

また、単元の始めや途中で常に既習事項を振り返らせたり、単元のまとめで力をつけ
るページや巻末に自習コーナーなど、学習を深めたり広げたりするページが適切に設け
られたりして、確かな学力の定着が図れるよう工夫されていると思う。

また、日常場面を題材にしたり、問題に関連する日常生活の身近なものや情景の写真
を多く掲載したりしている。6年生のまとめの卒業旅行、算数のお話など、学ぶ意欲を
高め、算数の意義や有用性を感じとることができるよう工夫されていると思う。

さらに、平行線などの引き方が連続写真で丁寧であったり、ノートの書き方などの例
示が具体的であったりして、活動の説明がわかりやすく、基礎的、基本的な技能が着実
に習得できるよう工夫されていると思う。

算数についても、皆さん、そろって東京書籍ということなので、東京書籍を採択する
ということによるしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、算数については、東京書籍を採択する。
続いて、理科である。外松委員から発言をお願いする。

外松委員

理科も多数あって、いろいろと悩んだが、最終的には、大日本図書を推したいと思う。その理由として、大日本図書は、発達段階に応じた大きな目標が各学年それぞれに記されている。例えば3年生だと、「くらべながらしらべましょう」とあり、5年生になると、「条件を整えて調べよう」とある。そういう点にも考慮が感じられた。

また、単元の導入で、これまでの学習経験、それから、児童の興味や関心を高める活動をして、そして学習問題も見つけていく。次に、学習問題の解決として、予想や計画を経て、観察、実験し、結果、考察から結論を導くという一連の学習活動を行い、学習問題を解決していくという、問題解決能力を養う学び方をここでしっかりと学べるようになっている。

また、単元の終わりには、「確かめよう」、「学んだことを生かそう」で、知識や課題を活用していくことができるつくりとなっており、理科の学びには適していると思った。

学年の最後のページには、やはり、次の学年で学ぶことを知らせる予告のページがある。これは学びへの期待が高まるつくりであると思った。

終わりに、啓林館について、一言述べさせていただく。3年生の草むらの観察で、まとめの記録カードだが、大きく1ページを使っている。そこに一体何を記録していくのか、また、観察のポイントなどに、生活科とは違うということを非常に意識し、観察した草丈を「高かった」と書くのではなく、「何センチメートルぐらい」と記入している。初めて理科を学ぶ3年生への意識づけのつくりを評価したい。

以上である。

長島委員

私は、大日本図書を推薦させていただきたいと思う。各社、非常に問題解決型ということで工夫されていて、悩ましいところではあったが、やはり理科は写真やイラストが非常に大事だと思ったことと、その中でも、問題解決型の流れというのがわかりやすいのが大日本図書と啓林館だった。啓林館は、読めば読むほど情報量もたくさんあって、写真も非常によく、かなり細かいところがあって、最初は推していたが、大日本図書のほうが、さらに要点をまとめていて、学ぶ段階に付して、各個人、理解度もあると思うので、教科書としては、ふさわしいのではないかと思う。

教育長

私も、大日本図書がよいと思う。全体の構成を見ると、ほんとに子供たちの関心を高めて、思考の流れに沿った無理のない構成である。実験方法は丁寧に説明されていて、

注意点もわかりやすく示されている。文字と写真や絵の配置のバランスも非常によく、無理なく読むことができる。基礎的、基本的な知識の定着については、外松委員もおっしゃっていたが、各単元末に、「確かめよう」というページを設定して、そのことで児童自身が学習内容を確認することができるようになっている。

また、科学的な思考力、判断力、表現力の育成を図るために、観察、実験から得られる結果と結果から導き出した考察というのを分けて記述されていて、結果と考察を区別して、理解定着を図ることができるようになっている。

さらに各単元末の「学んだことを生かそう」というところでは、学習の中で得た知識や考察をもとに取り組む課題がしっかりと取り入れられていて、課題の難易度も適切かなと思っている。そういうことをもろもろ勘案すると、大日本図書は非常にバランスがよいと考えている。

以上である。

安藏委員

私は、啓林館がよいと思った。やはり、紙面のつくりも非常に見やすく、わくわくプラス子供たちが主体的に学べる工夫がされていること。単元ごとに学習の始めと終わりに工夫があり、予習、復習の過程でも非常に使いやすいような印象を受けた。また、紙面は活動が深まるよう、子供たち同士のやりとりがあって、子供たちは興味が持ちやすくなるのではないかなと思った。

以上である。

委員長

私は、大日本図書、啓林館、教育出版の3社で大変迷ったが、最終的には、大日本図書を推薦する。練馬区では、このところ、特に理科学習の改善が課題となっている。この課題の改善を図るためには、特に小学校段階から問題解決学習を積み重ね、主体的に学ばせることや、子供たちに理科の有用性を実感させることが大切だと思っている。大日本図書は、この点をしっかり押さえていると思う。

例えば、問題解決学習の過程が他社に比べて大変、簡潔、明瞭に示されていたり、見開きの同一ページに調べ方や器具の使い方も示されたりして、授業で使いやすいよう、わかりやすく工夫されていると思う。

また、単元の始めには、身近な生活体験や復習事項と関連した学習活動を行い、単元の終わりには、学んだことの確認や活用を図り、学習のまとめをするというように、単元全体の流れもわかりやすく構成されていると思う。

さらに、資料で身の周りにある理科や理科の知識を通して社会に貢献した人を紹介したり、生活とのかかわりを考える問題を取り上げたり、単元の始めに日常生活と関連を図ったりと、理科の有用性を実感させるように、さまざまに工夫していると思う。

結果からいうと、大日本図書の推薦が多いが、安藏委員、大日本図書でよろしいか。

安藏委員

はい。

委員長

それでは、理科については、大日本図書を採用する。
続いて、生活である。長島委員から発言をお願いします。

長島委員

教育出版を推薦させてもらいたいと思う。私、最初、日本文教出版の教科書がよいか
なと思っていたが、全体を見て、教育出版は、生活という科目の中で子供たちが身に付
けなければいけないことを非常に丁寧に表現されていてよかったのが1つと、あとは、
全体に動きや活動をイメージしやすい写真がとでもたくさん載っていて、そこに吹き出
しがあったりして、子供たちもとてもわかりやすいかと思った。全体的な構成も非常に
読みやすいと思う。

教育長

私は東京書籍と教育出版で、どちらかだと思っていた。東京書籍の生活も大変工夫が
されていて、生活科そのものが1年生、2年生という低学年で習う教科だから、こうい
う部分も含めて、いかにわかりやすく勉強させるかというのは非常に重要なところで、
そういう意味では、東京書籍は非常にすぐれていると思った。学習したことを家族に伝
えたり、実生活につないだりしていく活動も掲載されていて、学習した力を伸ばしてい
く工夫があるかなと。

さらに、裏表紙には保護者へのコメントが掲載されていて、生活科の意義を説明して、
日々の子供との対話の中で、主体的、意欲的な発言が出てくることを目指していること
を伝えながら、家庭や地域と協力して子供たちを育むということについて触れられ
ているのは、今回、生活の教科書で非常に良かったと思っている。

一方、教育出版も大変すぐれた教科書だと思っている。都内で児童が目にすることが
できる動植物が多く掲載されていて、そういう意味では親しみを感じることができる。
また、簡単に作れるおもちゃなどを通じて、自然の不思議さや面白さを実感するよう
な学習活動が掲載されていて、これは非常に効果的だと思った。

また、「ぐんぐんポケット」というコーナーに、防災や防犯や交通安全等に関する内容
が掲載されている。また、各単元の学習内容に合わせて、安全面とか衛生面で気をつけ
ることが、学習ページごとにイラストとか短文、記号で示されていて、安全教育が非常
に充実しているなと思った。

そういう意味では甲乙つけがたいが、練馬区は安全教育に力を入れているので、最終
的には、教育出版を推薦させていただきたいと思う。

以上である。

安藏委員

私は、東京書籍を推薦したい。紙面がとても見やすく感じたことと、写真、図、イラ
ストなどのレイアウトに、非常にメリハリがあるという印象を受けた。また、普通の学
年での生活や学校生活など、説得力のある写真が載っており、子供たちにいろいろ考え

させるよう工夫されている点がよいと思う。

外松委員

私も東京書籍と教育出版と大変悩んだが、最終的には、教育出版を推したいと思う。

掲載されている写真が、子供も大人も表情が豊かで、また、自然の写真が鮮明でわかりやすく、現場の先生たちが、この教科書をもとに、ご自分の学校、地域に合わせた授業を展開していくときに参考になるのではないかと思った。

また、先ほど教育長も述べられていたが、巻末の「ぐんぐんポケット」が非常に充実していて、生活や学習が豊かになるように、書く、話す、聞くときの大切なこと、それから活動で扱う用具の扱い方、安全や防災への注意、さらには読書案内まで取り上げまとめてあって、これは授業をしていく上でも、非常に活用できるのではないかと思う。

「町探検」も、発達段階に合わせて、春と秋に設定されている。このことは、最初の経験、学びを生かし、探検がさらに充実して深まる学びになるようにということなので、これでしっかりと人生の基礎も養える、そういうつくりになっていると思った。

委員長

私も、教育出版を推薦する。その理由としては、まず、学習の目当てや活動内容や流れがわかりやすいよう、丁寧に提示されている。例えば、見出しも工夫されていたり、擬態語や吹き出しの言葉が適切だったり、写真やコメントや例示が枠で囲まれ区別しやすかったり、学習のまとめ方の具体例がわかりやすかったりと、さまざまに工夫されている。活動への興味、関心を高め、気づきを促すことができると思う。

また、巻末資料は充実し、内容もすぐれていると思う。例えば、皆さんからご発言があった「ぐんぐんポケット」では、「調べよう」など、項目ごとに他教科や実生活に活用できる基礎的、基本的事項がわかりやすく掲載されている。また、1年間の学習内容を振り返らせたり、次の学年の学習へのつながりを意識させたりしている。これらの活用で、生活科の目標である自分自身や自分の生活をしっかり考え、生活上、必要な習慣や技能を身につけることができるようになると思う。

生活についても、多くの方が教育出版ということである。安藏委員、いかがか。

安藏委員

教育出版でよろしいかと。

委員長

それでは、生活については、教育出版を採択する。

続いて、音楽である。河口教育長から発言をお願いします。

教育長

2社とも、それぞれ特色を出して、また、非常に工夫を凝らして、いい教科書だと思って見たが、私は、教育出版を推薦する。その理由は、学習指導要領の改訂があったが、その趣旨に一番沿っていると思っている。音楽を愛好する心情、音楽に対する感性、音

楽活動の基礎的な能力という3つがあるが、そこをそれぞれ考えさせながら指導するという工夫がよくされていると思っている。

教育芸術社も、新たに設けられた教習事項の取り扱いについては適切だとは思う。ただ、まず、基礎的、基本的な事柄を習得させ、次に基本事項を活用した学習活動へと展開していくという、そういう流れは、教育出版のほうはやや優位だと思っていて、そういう意味では、教育出版の教科書を使うことによって、児童の確かな力の獲得や、より豊かな表現活動が期待できると思った。

以上である。

安藏委員

私も、教育出版がよいと思った。内容的に、歌のイメージを浮かべやすいような写真になっていて、歌いながらリズムをとったり、踊ったり、楽しみながら音楽が学んでいけるような内容がよいと思った。子供たちに話題性のある演奏家の紹介もあって、音楽により身近に興味を持てるよう取り上げられている点、そして、使用する楽器などの写真が非常に大きく、わかりやすい解説が載っていて、非常に使いやすいのではないかと、そんな印象を受けたので推薦したい。

外松委員

私も、教育出版を推したいと思う。各学年の発達段階をよく考慮した資料ページと鑑賞性の高い写真の使用等、視覚的にも大変すぐれており、説明も簡潔な文章から基礎的な能力を培うことができるものになると思った。

つくりだが、4年生からは、表紙を開くと見開き2ページで、アーティストと、それぞれの方の言葉を添えた紹介がある。4学年は奄美大島出身で島歌を歌っている元ちとせさん、5学年ではバイオリニストの五嶋みどりさん、ラオスと日本の小学校で演奏している写真も掲載されていた。ピアニストの辻井伸行さん、彼の多くの人に支えられて今があるというような趣旨のメッセージが取り上げられている。これは別に授業で取り上げなくても、子供たちが教科書を手にする中で、このページを目にして、世界が広がるといいなと期待した。

音楽は、おそらく、どの児童も好きで、そして、人生を送る中で今は常に身近にあるものだと思う。また、豊かな心情を養っていく上でも欠かすことのできないものである。教科書を手にして見ていくだけでも心に響くものがある、そういうつくりだと思った。

もちろん、先ほどお二方が述べられたように、基礎、基本がしっかりとっていて、学年に応じた学びができるということが非常にいいと思っている。

また、どの学年も国歌が掲載されているが、学年に応じて、言葉の解説、それから、使っている漢字、そういうものも発達段階を考慮した形になっていて、非常に子供の立場も考えて編集されていると感じた。

以上である。

長島委員

私は、教育出版を推薦させていただく。見た感じでは、教育出版と教育芸術社では全

然違うような印象を受けた。

教育芸術社は、歌集とか、どちらかという、歌うための資料として考えたときに、非常に充実していて、音楽の先生によっては使い勝手がよいのかなという感じを受けた。

ただ、それに対して教育出版は、今、外松委員からもお話があったように、非常に工夫されていて、圧倒的に音楽に対して親しみやすいという印象を受けた。

どちらがよいかという、やはり、ここでは読み物というか、子供たちが親しんでいくことが非常に大事だと思った。

委員長

私も、教育出版を推薦する。これまでの教科観を変え、現学習指導要領の示すものを十二分に踏まえて編集されているということ強く感じる。例えば、美しく、明るく、楽しそうな挿絵や、写真のレイアウトも大変すばらしく、現在、活躍している音楽アーティストや、音楽に関するさまざまな情報も豊富である。教科書全体が児童の興味、関心を喚起し、音楽のよさや楽しさを実感させ、豊かな情操を養うよう、よく工夫されていると思う。

具体的には、例えば2年以上の季節の歌では、富士山等の大きく美しい写真とともに、我が国の伝統音楽や、行事や、自然の美しさや、音楽の多様な活動に触れることで、音楽のよさに共感し、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度が培われるようになると思う。また、楽器の演奏と学習のポイントが、写真や適切なコメント入りで、大きく、はっきり、丁寧に示されている。そのほか、巻末の資料も豊富で、各学年の発達段階に応じて、共通事項の基礎的内容もわかりやすく整理されている。音楽活動の共通事項がしっかり身につけられるようになっていくと思う。

全員の方が教育出版を推薦されているので、音楽については、教育出版を採択する。続いて、図画工作である。安藏委員から発言をお願いする。

安藏委員

私は、開隆堂を推薦したいと思う。内容的に非常にテーマがわかりやすい。また、紙面が大きくて、うまく活用した、すっきりとして、非常に見やすい教科書だなと思った。子供たちに考えさせながら作品をつくるようになっていて、同時に、製作に必要な用具や基本も示しながら作品をつくるよう工夫されていると思って、子供たちには非常にぴったりではないかと思った。

以上である。

外松委員

私はどちらを選ぶかは非常に困難であるというふう感じたが、最終的には開隆堂を推したいと思う。子供が図画工作を学ぶに当たって、教科書を見ながら、自分でいろいろ用意をしたり、注意をしたりすることができる、そんなつくりになっていると感じた。

例えば、目次に単元とタイトルがあるが、その隣に、その学びに使う主な用具や材料も記されているから、自分で確認をして用意ができると思った。

また、1・2年生用の上に、のりのつけ方が絵と短い文で非常に簡潔に説明してあり、

のりをつける指、紙をつかむ指、挟む指、押さえる指というのを示している。今は、簡単に貼りつけられるようなものが出回っている。先生方が指導する上でも適切な教科書であると思った。さらに、化学接着剤の使用の注意もあり、低学年には必要事項であると思った。

用具の扱いについても、それぞれの発達段階を追って、使う用具が示されている。また、終わりのほうに、何回でも見ることができる用具の扱い方のページもあるので、ずっと使っていく上で、よいと思った。

1・2年生用の下で、材料玉手箱というのは、造形の意欲をかきたてるのではないかと感じた。

以上である。

長島委員

私も、開隆堂を推薦させていただきたいと思う。甲乙つけがたいとは思いますが、開隆堂のほうが、作品をつくるプロセスについて、かなり具体的に書いてあったり、用具や材料の使い方といった説明が詳しくて、非常にわかりやすいと感じた。

日本文教出版も、写真もたくさんあって非常によかったが、やっぱり決定的なのは、非常に主観的ではあるが、開隆堂のほうが、優れた作品を掲載されていると思った。図工は、やはりイメージが大事だと思うので、非常によくできて、センスがあるものを掲載されているという印象を受けた。

教育長

私も、開隆堂を推進したいと思う。全巻に作家からのメッセージと作品を掲載して、表現することの楽しさを児童に伝えるような編集がなされていることは非常にインパクトがあると思う。今、長島委員からもあったが、日本文教出版も非常によくできているので、ほんとうに甲乙つけがたいが、やっぱり、掲載されている作品が開隆堂のほうが楽しそうだという、そんなイメージがあって、子供たちにとっても、とっつきやすいというか、取り組みやすい教科書になっているのは、どちらかという開隆堂だと思った。

以上である。

委員長

私も、開隆堂を推薦したいと思っている。例えば、6年生の教科書のタイトルが「ゆめを広げて」とされ、冒頭に、現実に夢を形にした若い彫刻家のすばらしい作品を自作の詩とともに載せている。作者の創作への熱い思いが伝わり、子供たちの夢の実現のよきモデルになると思う。

また、教科書の表紙のタイトルや、各単元に掲載されている題材名の書き方や、参考作品が、どれも創造的かつ魅力的で、「ゆめを広げて」というタイトルにふさわしい内容になっている。教科書全体が子供たちの夢を広げ、学習意欲を触発させるよう、よく工夫されていると思う。

さらに図工で育てたい力を3つにくくり、マークとともに文章で示すことで、各題材の学習の目当てが意識化され、効果的であると思う。

見開き 2 ページの中に、参考作品を見やすいように配置したり、その活動のねらいや手順を写真や文章で適切に示したりして、わかりやすいと思う。このように、授業の流れや方法が一目でわかるよう紙面構成が工夫されている。

全員一致で開隆堂ということなので、図画工作については、開隆堂を採択したいと思う。

次に、家庭科である。外松委員から発言をお願いする。

外松委員

東京書籍、開隆堂、それぞれ工夫されてつくられているが、私は、東京書籍を推薦したいと思う。子供たちが初めて家庭科を学ぶに当たって、5・6年の2年間で家庭科を学ぼうという大きな柱として、「学習のめあて」が、「見つめよう」、「計画しよう・活動しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の構成となっており、見通しを持った学びができるようになっていくつくりだと思った。

また、学んでいて、確認したいことができた時、また、どうやってやるのだらうと活用したいことができた時、目次から5ページまでに戻るとわかるような、工夫したつくりとなっている。大変に使いやすいので、これは成人してからも役に立ちそうだなとも思った。

また、「いつも確かめよう」のコーナーがあって、学んだことの確認ができ、学びがしっかりと身について、日常生活に生かすことができるつくりになっている。

安全、環境と記されている箇所もあり、そういうところに配慮して日常生活を送ったり授業をしていく、そういう気づきのところも多く設定されている。

また「プロに聞く」というコーナーで、日本の伝統文化に気づかせたり、職業の多様性にも目が向けられるなど感じた。具体的には、窓のショールーム担当者や管理栄養士、繊維メーカーお客様相談室マネジャー、伝統野菜の生産販売者、洋服のデザイナー、日本料理人の写真と話が紹介されていて、これは非常にいいなと思った。

もう一つ、私がぜひ推したいと考えた理由の1つだが、最近、左ききの児童が増えてきている。当書は、左ききの児童にもよく配慮されていて、包丁の扱いについては、ジャガイモの皮むきなど、写真も大変大きく、わかりやすくなっている。ほかに、箸やお椀の持ち方、それから、手縫いをするときの布と針の持ち方も紹介されている。左ききの児童は、これで大変助かるのではないかなと思う。また、材料の切り方の写真が非常にわかりやすく、調理する際には、ここのコーナーは必須だと、そんなふうにも思った。

以上である。

長島委員

私も、東京書籍を推薦させていただく。開隆堂も資料がとても豊富で、この2つの教科書を拝見して、今、家庭科の教科書ってこんなにすごいのだなと非常に感動した。どちらとも内容が充実していて、非常に使いやすいのではないかなと思ったが、今、外松委員からもあったように、細かな部分でちょっとずつ差があって、左ききの話もあって、あと、「プロに聞く」というのは私も非常にいいなと思った。どちらかということ、写真や絵も大きく使われていて、イメージがしやすくて、非常に流れに沿ってというか、体系

的に学べる工夫がされているのが東京書籍なのかなと思う。

以上である。

教育長

私も、東京書籍を推薦する。2社とも、学習指導要領に対応できる内容となっており、日本の伝統の技術やプロに学ぶコラムなどが充実していると思っている。

ただ、学習活動の視点で考えると、実習に時間を多くとるので、教科書で確認が必要になったときに調べやすい、いかにわかりやすいかといったところが重要だと思っている。東京書籍は、先ほど来いろいろと話が出ているが、「いつでも確かめよう」では包丁の扱い方が大きな写真で示されているし、また、右きき、左ききに対応してあって、とても親切だなと思う。また、児童が結構つまずきがある玉結びやミシンの扱い方も、同様に非常に大きな写真で、わかりやすい説明がある。単元名にも工夫が見られるし、また、「学習のめあて」が明確に示されている点からも、東京書籍のほうが多くの子供や先生方には使いやすいのではないかと思った。

以上である。

安藏委員

私も、東京書籍を推薦したいと思う。今、皆さん話されているように、それぞれ、なかなか甲乙つけがたい内容だったが、その中でも、やはり、ページレイアウトの印象がすごくすっきりとしていて、まず、文字が読みやすかった。そして、写真も大きくて、見やすく、わかりやすくなっている点。また、ふだんの生活から、それぞれの内容をイメージしやすいような配列になっているのが非常によいと思った。

また、単元に入っていくときに、最初の導入がすんなり入っていけるような紙面のつくりになっていると思った。

以上である。

委員長

開隆堂は内容が大変豊かで、説明も詳しいので、参考資料として役立つなと思う。一方、東京書籍は、初めて家庭科を学習する小学生の発達段階に合うよう内容を精選し、学習がスムーズに進められるよう、さまざまに工夫されていると思う。

具体的には、まず、学習のめあて、活動内容、作業手順等がわかりやすく区分して配置され、学習の流れが一目でわかるよう紙面が工夫されていると思う。

また、包丁の持ち方やミシンの使い方や作業手順等が非常に大きな写真で示され、よくわかる。また、そのポイントを簡潔な文章で適切に説明しているので、初めて体験する子供でも、やり方がわかると思う。

さらに、教科書に直接書き込みができる箇所も適切で、使いやすいと思う。また、「いつでも確かめよう」という欄で、常に基礎技能を振り返って確認できるように工夫されている。

このように、初めて家庭科を学ぶ子供たちにとって、何をどのようにやるのかがわかりやすいよう、さまざまに工夫され、内容的にも基本的な事柄がしっかりと精選されて

いて、大変すぐれていると思う。

以上の理由から東京書籍を推薦する。

皆さんのご意見で、全て東京書籍ということなので、家庭については、東京書籍を採択する。

次に、保健である。長島委員から願います。

長島委員

東京書籍と学研と悩んだが、保健は写真と実際のイメージが非常に大切だと思っている。そんな中で、学研は写真やイラストの使い方が非常に上手だなと思った。また、書き込みもできるようになっており、その書き込みが効果的に使われているなという印象を受けた。

東京書籍も、各項目が非常に整理されていて、ポイントがわかりやすかったが、やはり、保健も感覚的なものもあると思うし、間違ったイメージは決してよくないと思うので、ほかが間違っているわけではないが、中でも体系的に学べるということで、私は、学研教育みらいを推薦させていただきたいと思う。

教育長

私も、同じく東京書籍と学研で悩んだ。悩んだ結果は長島委員とは逆で、東京書籍を推薦しようかなと思っている。学習課題がわかりやすく明記されていること、活用して「深めよう」とか「広げよう」というページがあるが、そういうのが非常に充実していて、学んだ知識を活用することが期待できるなと思った。

ページの構成では、各単元が見開き2ページに示されていて、児童にとっても、わかりやすく工夫されている。学習活動も、「やってみよう」あるいは「話し合ってみよう」、「考えてみよう」というふうに明記がされていて、分量的にも適当かなと思っている。

また、「つなげよう」というところでは、他の教科とのつながりが示されていて、横断的な教科学習も期待できるという点から、どちらかといわれると、東京書籍だと思う。

以上である。

安藏委員

私は、学研教育みらいを推薦したいと思う。まずは、本の大きさをうまく活用しているなという印象だが、写真も多く載っていて、同時に、写真が大きいことにより、説明の説得力がすごくあるという印象を受けた。また、キャラクターが問題提起をしている点と、場面に適した配置であったり、解決へと導いて学習を進めやすいのではないかと考えた。

外松委員

私は大日本図書と学研教育みらいと思って、少し考えさせていただいた。大日本図書は、サイズがB5版サイズとコンパクトであるということが特徴。それから、考えを深め、導くものとして、イラストが多用されている。また、学習を進めるに当たって、話し合ってみようのコーナーがあり、言語活動が定着していく、そういう特徴があると

った。

もう一つ、よかったと思ったのは、3学年の健康な1日の生活の仕方の見開きのページのところだが、イラストを見ながら、起床から就寝までの17項目に、自分でどんどんチェックが入れられるようなつくりになっていて、3年生ぐらいだと、大変学びやすいかなと思った。

ただ、最終的には、学研教育みらいを推したいと思う。それは、全体的に、子供にとって非常に学びやすいつくりになっていると受けとめたからである。

まず、単元の表示のすぐ下に、ここで学ぶことと学習課題のページが非常に明確になっていて児童に伝わりやすかったり、重要な語句が太字になっていて、基礎的な知識を見につけるための助けとなっている。また、もっと知りたい、調べたいなどで学びが深まるようになっている。さらには、単元の終わりの学習のまとめのページは、書き込み式になっていて、学んだことがすぐチェックできるので、子供の学習としては適切だなと思った。

また、全体的に図や写真が非常にきれいで鮮明で、理解しやすいし、伝わりやすいと思った。

今、ニュース等でも言われている子供たちが巻き込まれてしまう可能性のある薬物乱用の害のところでも、必要なことがしっかりと掲載されていた。

また、マークとかキャラクターを使用して、学びが広まったり、深まったり、科学的な目を培ったりすることができるような仕組み、そんなつくりになっているところも適切である。

委員長

私も、学研教育みらいを推薦する。学研教育みらいは、他社はもちろん、同社の前回の図書よりも、さらに学習指導要領の狙いを十分踏まえた図書に改良されていると思った。

具体的には、まず、どの単元も1つの課題が見開き2ページなので、子供たちにとって、何をどのように学ぶのかがわかりやすいと思う。また、活動のマークや紙面構成の工夫で、つかむ、調べる、まとめる、深めるといった問題解決学習の学習過程が大変明確になっていて、わかりやすいと思う。

また、単元の終わりでは学習の振り返りや活用や発展を図り、単元の途中では「科学の目」が設けられ、すぐれた内容の資料や写真が豊富に掲載され、学びを深め、広げるようになっている。個々の児童の理解に応じて活用することができるよう工夫されていると思う。

さらに、資料や写真、イラストが多用され、その内容も、ねらいや発達段階にふさわしく精選されていると思う。また、教科書に直接書き込める箇所も使いやすく、適切であると思う。

皆さんの意見、学研教育みらいが4、東京書籍が1だった。河口教育長、いかがか。

教育長

はい、結構である。

委員長

それでは、保健については、学研教育みらいを採択する。

以上で、全種目の採択が終了したので、全種目の採択した発行者を確認する。

国語は光村図書、書写は光村図書、社会は教育出版、地図は東京書籍、算数は東京書籍、理科は大日本図書、生活は教育出版、音楽は教育出版、図画工作は開隆堂、家庭は東京書籍、保健は学研教育みらいである。

以上を採択することよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、議案第38号については、先ほど種目ごとに述べた発行者の教科用図書を「採択」する。

これをもって、第15回定例会を終了とする。